

授業科目 看護実践法演習

【担当教員名】 阿部 明美		対象学年	1	対象学科	看護
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】

看護を实践する上での問題解決や意志決定過程のために必要な看護過程について理解し、その活用方法を習得する。

看護過程の各段階（アセスメント《・診断》・計画立案・実施・評価）について学習し、事例を用いて看護過程の展開を行い（演習）、看護実践における活用方法を習得する。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】

※行動目標（SBO）として記述する場合はSBO番号を付記すると共に、下のSBO番号欄に該当する番号を記入して下さい。

- 看護における看護過程の意義について説明できる。
- 看護過程の各段階（アセスメント《・診断》・計画立案・実施・評価）について説明できる。
- ロイ適応モデルの支持理論およびモデルの概要について説明できる。
- ロイ適応モデルに基づく看護過程の構造と機能について説明できる。
- 看護過程の記録用紙の活用方法について説明できる。
- 事例に基づき看護過程（アセスメントから計画立案）が展開（記録用紙への整理）できる。
- 事例における看護過程の展開を発表し、ディスカッションを通して看護過程の理解を深めることができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1-3	1. 看護における看護過程の意義	1	講義
	2. 看護過程の各段階	2	講義
	3. ロイ適応モデルの支持理論およびモデルの概要	3	講義
	4. ロイ適応モデルに基づく看護過程の構造と機能	4	講義
	5. 看護過程の記録用紙	5	講義
4-12	6. ＜演習＞事例をもとに看護過程の展開 各グループおよび個人で事例についての学習を進め、看護過程（アセスメントから計画立案）を展開（記録用紙への整理）する。	1-6	演習
13-14	7. 発表（グループ毎）	1-7	発表
15	＜筆記試験＞		

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	ロイ適応モデルによる看護実践ガイド	診断・介入・評価	江本愛子編	メヂカルフレンド社 1998年 2,520円
参考書	随時提示する			
その他の資料	プリント類			

【評価方法】	【履修上の留意点】
出席状況 演習への取り組み レポート・筆記試験	ここでの学習をもとに、基礎看護学実習Ⅱでは実際に患者を受け持ち看護過程を展開するため、積極的に演習に取り組み、理解を深めること。